

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第33号 2018年12月1日

今年も余すところ一か月となりました。
今年ドビュッシー(1862-1918)の没後100年にあたる“メモリアルイヤー”でした。
そのためか、ドビュッシーの作品を組み込んだコンサートが多かったようです。
ジョイコンでも、第32回(Duo Concert)、第35回(山田磨依ピアノ・リサイタル)、
第36回(Lumie Saxophone Quartet Concert)でドビュッシーの作品が演奏されています。
ジョイコンでは、“演奏者が演奏したい、挑戦したい曲を選んで頂く”ことを
基本スタンスにしています。ということで、これは偶然ですね。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」(第33号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆ 第37回コンサート
- 【2】 今後の予定(先取り情報)
 - ◆ 第38回コンサート
 - ◆ 第39回コンサート
- 【3】 アダルトな楽器、ヴィオラ!
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■■ 第37回コンサート ■■

- ◇ 2019年1月20日(日曜日)
14:00開演(13:30受付開始)
- ◇ 出演: 田原綾子(ヴィオラ)、原嶋唯(ピアノ)
- ◇ プログラム(予定)
 - ◆ シベリウス: ロンド JS162
 - ◆ グリンカ: ヴィオラソナタ
 - ◆ ヒンデミット: 無伴奏ヴィオラソナタ 作品25-1
 - ◆ 森円花: Aoide(2019年、田原綾子委嘱作品)
 - ◆ ブルッフ: ロマンズ
 - ◆ クラーク: ヴィオラソナタ
- ◇ 料金: 大人・高校生 2,000円、中学生以下 1,000円
- ◇ 会場: 大倉山記念館ホール

第37回ジョイフルコンサートは
『田原綾子ヴィオラリサイタル～深まる冬 ヴィオラの響きと出会う』と題して、
お届けします。

田原綾子さんからメッセージが届いています

この度、ここ大倉山記念館ホールでリサイタルをさせて頂けますこと、心から嬉しく
思っております。

プログラムには、歌心に溢れ、人の心にそっと寄り添ってくれるような作品、温もり
だけでなく深い哀愁をも感じて頂けるような作品、そして最大限の迫力を肌で感じら
れる作品と、ヴィオラならではの幅広い音色をお楽しみ頂けることを考え、選曲しま
した。

大切な2人の友人、ピアニストの原嶋唯さんと一緒にひとつの音楽を作り上げ、作曲
家の森円花さんが私の為に作ってくださった作品と共に、大倉山記念館ホールの素敵

な空間で皆さまと素晴らしい音楽の時間を共有させて頂ける日が今から楽しみです。
冬の寒さに凍える季節ですが、身体の内まで温まって頂けるよう、心を込めて演奏し
たいと思っております。
たくさんの方のお越しをお待ちしております！

今回は田原綾子さんのヴィオラソロコンサートです。
ヴィオラのソロは珍しいので楽しみです。
とても一生懸命な方でプログラムの曲説明も字数大幅オーバーでかなり短縮をお願い
したほどでした。演奏もきっと人柄溢れるものだと思います。どうぞお楽しみにな
さってください。

●ミハイル・グリンカ/ヴィオラソナタ

☆ミハイル・グリンカ

ミハイル・グリンカは「近代ロシア音楽の父」と呼ばれる作曲家です。亡き後「ロシ
ア5人組」(バラキレフ、キュイ、ムソルグスキー、ボロディン、リムスキー＝コルサ
コフ)、チャイコフスキー等ロシア音楽全体に多大な影響を与えました。
グリンカの歌劇「ルスランとリュドミラ」の序曲は演奏会でも多く演奏され、耳にさ
れた方も多いと思います。

グリンカは19世紀初期に貴族で裕福な家の第2子として生まれ、幼い頃から音楽に
関心があったそうですが、その頃専門的に勉強したとは言えないようです。最初は運
輸省に勤めました。退職後イタリアに旅行に行き、ドニゼッティ、メンデルスゾーン、
ベルリオーズ等と交流する機会を得て、音楽や芸術への関心が深まっていったのでし
ょうか？その後ベルリンで教会音楽と和声を学び、西欧の文化を吸収していく中で今
度はロシア人としてのアイデンティティーを考えロシア的な作品を書きたいと思うよ
うになったそうです。

当時のロシアの貴族階層はドイツ、フランス、イタリアの音楽を好んでいて自国の音
楽に目を向けることは少なかったそうです。そこでグリンカはロシアの民族音楽の要
素を取り入れたオペラを初めて作った作曲家となりました。

異文化とロシア的民族音楽の特徴を融合させた曲を発表し、その流れがロシア国民楽
派につながっていったそうです。

☆グリンカ/ヴィオラソナタ

ヴィオラ音楽にこのグリンカのヴィオラソナタはとても重要だそうです。しかしこの
曲を書いたのはまだ作曲経験もない、イタリアに留学する前の若い頃でした。残され
ていたのは第1、第2楽章だけで、しかも第2楽章は末尾が失われていたそうです。
後にヴァディム・ポリゾフスキーが40小節を第1楽章の主題を取り入れて補稿し完
成したと考えられています。

第1楽章の出だしはピアノが主題の旋律を演奏し、その後ヴィオラの演奏が続きます。
物哀しくて哀愁を感じさせるメロディーです。ピアノは決して添え物ではなく、重要
な演奏パートでありとても難しいと言われているそうです。

寒い日にじっくり聴いていただきたい曲だと思います。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定(先取り情報)～「予約申し込み」はまだ受付けておりません

■■第38回コンサート■■

◇2019年3月17日(日曜日)

- ◇出演：毛利文香（ヴァイオリン）、田原綾子（ヴィオラ）、伊東裕（チェロ）、原嶋唯（ピアノ）
◇プログラム（予定）
◆ブラームス：ピアノ四重奏曲第3番 ハ短調 Op. 60
ほか
※ジョイコン初となる「ピアノ四重奏」の演奏会です。
どうぞご期待ください。

★予約受付開始日：2019年1月21日（月曜日）

■■第39回コンサート■■

- ◇2019年5月19日（日曜日）
◇出演：荒木奏美（オーボエ）、ほか

【3】アダルトな楽器、ヴィオラ！

見た目が「大きいヴァイオリン」あるいは「小さいチェロ」のようなヴィオラ。ヴィオラは楽器の構造も指使いも弓の使い方もヴァイオリンと同じです。違いはというと、サイズが少し大きいことと音域がヴァイオリンより完全5度低い中音域を担当することです。

ヴァイオリンはボディサイズ約35・5cmが標準ですが、ヴィオラには決まったサイズがありません。大きければ大きいほどヴィオラらしい音色が出るそうですが、大きすぎると演奏が困難、肩に乗せるので長時間の演奏に耐えられないとかで演奏者は自分の体に合った適正サイズの中でできるだけ大きなものを選ぶそうです。大体38・5cmから43cmの間で、41cm前後が一般的なサイズのようなようです。大きさが決まっていないので、楽器によって胴体の大きさや全長、弦の長さなどいろいろな部分の大きさが違い、音色も様々になります。大きめのヴィオラは力があって深い音が、小さめのものはヴァイオリンのように華やかな音が出るといわれています。

ヴァイオリンには分数楽器（1/16、1/10、1/8、1/4、1/2、3/4）があるので小さな子供でも始められますが、ヴィオラにはないため、ある程度身体が大きくなるまで（大体身長150cm以上）待ってからでないとヴィオラを始めることができません。それで、多くのヴィオラ奏者はヴァイオリンから始めて、ヴィオラに転向するようです。ヴィオラに転向しても、子供の時からヴァイオリンで「歌い回し」などの音楽の表現力をしっかり身に付けているので、伴奏をつける立場になっても絶妙な加減でバランスを取ることができるといいます。ヴィオラは肉体的にも精神的にも子供には難しい楽器といえるようです。

オーケストラやクアルテット（四重奏）では、ヴィオラは高音域のヴァイオリン（メロディ）と低音域のチェロ（バス）をつなぎ、音楽に深みや立体感を持たせる大切な役割をしています。

ヴァイオリンをオクターブで支え音楽に幅をもたせたり、チェロに寄り添い同じ動きでフォローしたり、リズムを刻んだり、主旋律を演奏したりとその仕事は忙しくハードです。ヴィオラは地味にみえますが、注意深く聴いてみるとヴィオラ次第で音楽が魅力的にもなるし、つまらなくなったりするほどの影響力を持っています。

ヴィオラは古くからある楽器ですが、19世紀以降にやっと独奏楽器として注目され始めました。なので、まだヴィオラ独奏用のレパートリーは多くはなく、ヴァイオリンやチェロやその他の楽器の曲を編曲して演奏されますが、ヴィオラのための独奏曲の中にもすてきな曲はたくさんあります。今回の演奏会のプログラムにも入っているブルッフの「ロマンス」やヒンデミットの「無伴奏ヴィオラソナタ」などはヴィオラ用の代表的な作品といわれています。（のん）

【4】コンサートのアンケートから

- ★前回のジョイフルコンサート（11月18日公演）
『Lumie Saxophone Quartet Concert～大倉山の秋に聴く サクソフォン四重奏とフランス音楽』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」63%、「良かった」17%、残りは「無回答」の20%で、今回もとても好評でした。

自由記入欄（ご感想など）には、

『初めてサククス四重奏を聴きました。奏法技能の高さ、各々の音色に感嘆しました』
『サククスだけの演奏はなかなか聴く機会がなく、生の迫力を楽しみました。それぞれの楽器の音色と響き、4つのハーモニーがすてきでした』

『ラヴェルのアレンジが良かったです。オーケストラ、ピアノ、ハープなどとはまた違う味わいを楽しませていただきました』『クラシックのサククスカルテットは初めての体験です。普段はジャズ等で接している楽器ですが、いろいろな可能性のあることを再認識しました』『サククスの四重奏を生で聴くのは初めてでした。素敵な女性がつむぎだす演奏を楽しませていただきました』

『毎度安定したすばらしさです！！シュミットすごかったね！！こっちが緊張しました。1曲目から泣きそうでした！みなさん本当にすごい！！』『サクソフォン四重奏初めて体験。サクソフォン四種を直に見て、聴いて良い経験。演奏も楽しく、充実の大倉山の日でした』など、好意的メッセージが数多く寄せられました。

アンケート回収数：60（回収率77%）

【編集後記】

次回コンサートでは、新進気鋭の作曲家である森円花（もり まどか）さんの

「Aoide（2019年、田原綾子委嘱作品）」が初演されます。

《…多彩な音色を持つヴィオラの可能性を追求し、また、眩しい彼女の才能をどの星よりも輝かせてみせたい、その想いを胸に筆を進めました。このAoideは、才能溢れるヴィオリストであり、親友である彼女への贈り物です…》と当日のプログラムへ森さんからメッセージが寄せられています。

いまから演奏が楽しみです。（お）

※このメールマガジンは、

大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で

「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込み

次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
